



妖夢

が触手退治で

返し討ち

には 徹底的に凌辱されちゃう!

私は魂魄妖夢
冥界にある白玉楼と
言う所で庭師兼
剣術指南役をしています

今日私は人里近くの
見たことのない怪物が
出るといふ洞窟へ
妖怪退治に来ました

本来ならこういうことは
巫女の仕事なんだけど！



まあ私の剣の腕を
見込んで頼まれたので
仕方ないです！

何たって私は
強いですからね！

ふふっ、
別に恨みは無いけど
覚悟しなさい！

チャキッ



！その時の私は
この軽率な行動が
あんなことを招くなんて
露ほども想像だに
していませんでした

というのもこの洞窟に巣食う
モンスターはまさに私のような
若い娘を狙った、その
いやらしい生態の怪物たちで



こうしている内にも
そいつらの出す妖気や熱気
フェロモンが私の身体を
少しずつ蝕んでいて！

注意力や判断力が奪われ、
代わりに身体を昂ぶらせ、
気付かぬうちに発情状態へと
誘引されていたのです！

洞窟に巣食う大量の
妖怪を蹴散らしつつ
私は意気揚々と
進んでいたのですが...

あっ!!
し、しま...っ!!

一瞬の油断を突かれ、
こんなことに...

剣の師匠である
お爺様にも
残心だけは怠るなど
何度も言われていたのに...





くっ、このっ！

じたばた

アッ

何とか逃れようと
暴れてみても
こんな体勢じゃとても
力が入りません

洞窟内の
妖しい熱気にも
煽られて気がかりが
急いでしまいます！

じたばた

離せ！
離さない！

じたばた

アッ

アッ

アッ

アッ



そうして必死に私がかいていると...

全く予想外の刺激が走り腰が跳ねました

ビクッ

アッ

アッ

?!?

アッ

アッ



な...っ、
何よこいつ!

ブクッ

や、やめっ、
あっ!?

そいつは私の股間に
ちゅうちゅう吸い付きながら
吸盤のような口で愛撫のような
甘噛みをします...

相手が原生生物とは言え
こんな所に口づけされる
なんて恥ずかすぎる...

早く
離れろおっ!

どこに吸い
付いてるのっ!

ブクッ
ブクッ
ブクッ
ブクッ



でもそいつは
離れるどころか...

あっ!!?

ビクッ

今度はお腹にさすべ...

きやあっ!!?

グググッ

グググッ

あっ!!?

あっ!!?

あっ!!?



んっ!

こんなに恥ずかしい所ばかりを責められたら集中できない...っ

その上をいつの体液は媚薬のような効果があるらしく、揉み込まれた先から身体が敏感になつていくようです

いい加減に...っ

いいやらしい所ばっかりっ!

かあっ

現に私の意識は拘束を逃れるという事よりもこのいやらしい責めをどうすればやめさせられるかの方に大きく傾いていました

ブルブル

んっ
んっ
んっ

んっ

んっ

んっ

んっ



っ!?!
ダメっ、ダメえっ!!

あああああっ!!

ああっ!?!
ああああっ!!

はしたなく気をやってしまい、
身体から力が抜けた私に触手は
更に襲い掛かっています!!

異性と手を
繋いだことも無い私に
胸と股間の三点責めは
刺激が強すぎました!

不意に力強く
吸われて私
もうっ!!

んんん
んんん

ちゅんちゅん

ちゅんちゅん



私が一番敏感な
三か所を気にしているのが
相手にも伝わって
しまったのでしょいか!

ああああっ!!

先ほどまで胸と股間に
吸い付いていた触手が口を締め、
今度は乳首とクリトリスに……っ

んあっ!?

んああああっ!?

あやっ!!

あやっ!!

あやっ!!

あやっ!!

あやっ!!



あぁあぁあつ!!!

いっちやううっ!!!

こんなやつ、無理っ!!!

あつ、あぁあぁあつ!!!

いくっ、いくっ!!!

それが、私の生まれで初めての
本気絶頂でした！

アッ

アッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ



な、何よそれ…
何のつもり…っ

そう私が決意を新たに
している、触手の怪物は
一際グロテスクな一本を
私に向けて伸ばしてきました

まさか…っ

い、嫌…っ

こいつの私への狼藉は
まだ終わっていない…
むしろまさに
今から始まるのだと
本能的に理解した瞬間



んあっ!!

あ、あーっ!!!

その触手は勢いよく
私の中へと
入ってきましたっ

嫌あああっ!!

そこは、一生を共に
添い遂げたいと思える
人のための場所なのになっ



私は剣術指南役どころか、
魂魄家の跡取り娘としてすら
取り返しのつかない身体に
されてしまったのだと
実感させられました

んうっ!!

ううっ!?

んううっ!?

私の股間に深々と
頭を突っ込み
出たり入ったりを
繰り返す触手を見て...

くううっ!!

つまらない油断から
こんなことになるなんて...
お爺様や主である幽々子様
に顔向けできない...



ですが私に
傷心にふける暇など
ありません

あ、あっ!!

あっ!!

やだ...注挿が
激しく...!!

やっ、抜けっ、
抜けえっ!!

ああっ!!

その意味する所を
察した私は何とか触手を
抜こうとしますが、
こんな状態では腰を振って
イヤイヤしてみせるくらい
しかできなくて...

んあっ!!

あああっ!!

んはあああっ!!

そんなタイミングで再開された
触手の責めは、まるで私をあざ笑って
いるかのように感じられました!!

もう少しで、
反撃のきっかけが
掴めるのに!!っ!

意識が完全に刃に向いていた
私は完全に不意を突かれてしまい、
悩ましげな声が漏れるのを
止められませんか!!



ふうっ、
くううっ！

これっ、くらしいっ、
でええ…っ！

乳首をこね回され
全身が甘く痺れ、
私の身体はますます
力が入らなくなつて
いました！

んううっ！！

グニッ

グニ
グニ
グニ

グニ
グニ

ブル
ブル

んっ
ブル
ブル

ポッ
ポッ
ポッ

でも何とか振り払おうとした所で、
胸が揺れ、乳首が引つ張られ、
余計に感じてしまうだけ！

とにかく今は、何をされても
刃の回収を最優先に！



あ、あつ!!

あつ!!

そして触手は私の狙いを
知ってか知らずか
進行方向と逆向きにピストンを
開始してしまいました

や、やめ...っ、
ああつ!!

せつかくあと一歩の
所までたどり着いたのに...

くうっ!!

押し戻されないうように
震える足腰で必死に踏ん張ると
ピストンで余計に感じてしまう...

それどころかまるで
合い腰を打っているような
動きになって...

ああつ!!

あああつ!!



んうっ!!

違うっ、
違うう…っ!!

くうううっ!!

ううううっ!!!

魂魄家の娘が
妖怪に犯され感じるなど
あつてはならないことです

怪物の子種が私の奥を叩くと
同時に全身に走る快感を
私は必死に否定しました!

また、中に…っ!!!

イっちやう…っ



…う、ああ…

子種を、また注がれた…っ

その事実には打ちのめされる私に、さらに追い打ちがかかります…

はああ…っ

目を開けた私の視界に最初に飛び込んだのは大事な楼観剣が私のアソコから溢れ出した精液で汚れた姿でした

うあ、あ…私の…刀が…

私の未熟さのせいでごめん、楼観剣…っ



でもそんな感傷に
ひたる時間すらすぐに
奪われてしまいます

あっ!!

ま、またあっ!!?

あっ!!

さっきさっ、
もうっ、
出したのにつ!!

一度イカされ、
敏感になったアソコを
間髪入れずピストンで
しごかれ!

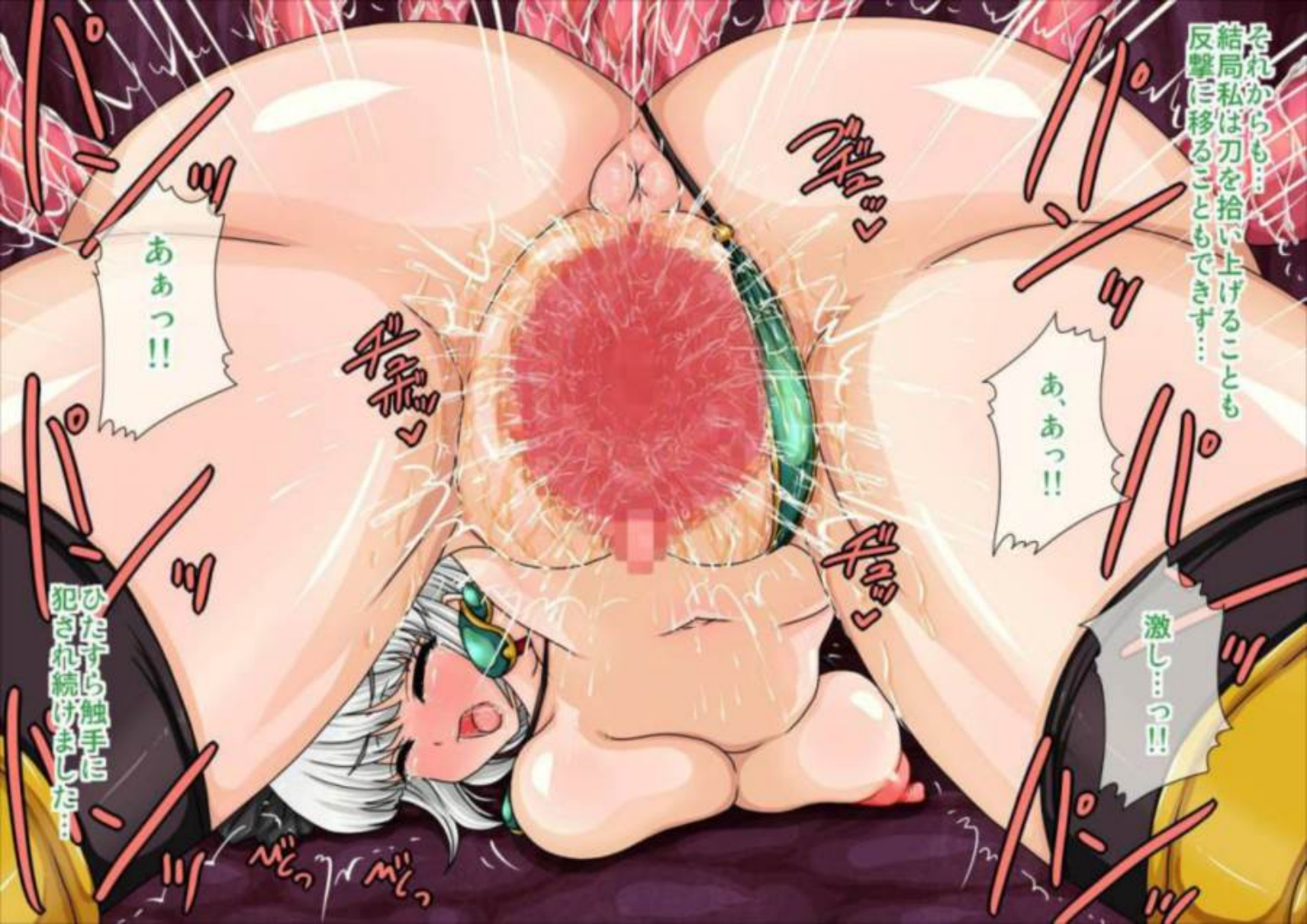
ああっ!!

無様な悲鳴は上げないと
誓ったのに、大事な刃が
汚されてる横で嬌声を
上げさせられて!

私は、自分が本当に
恥ずかしくて
情けなかつたです...

ああああっ!!!





それからも...
結局私は刀を拾い上げることも
反撃に移ることもできず...

ああっ!!

あ、あっ!!

激し...っ!!

ひたすら触手に
犯され続けました...

アッ

アッ

アッ

アッ

あつ、ダメっ!!

嫌っ!!

も、もうっ、
中に出しちゃっ!!

何度も犯されている内に
こいつが射精の直前に
ストロークを速めることに
気付いたのですが...

嫌っ、嫌っ、
嫌あ...っ!!

むしろそれは、
今から中出しするぞと
宣言されているようで、
一層私の焦燥を煽るだけ...

こんな体勢じゃ
私にできることは
お尻を振って
拒絶の意志表示を
することくらいで...



嫌あああああつ!!!

気持ち良くなんかない、
こんなの気持ち良く
なんかない!!!

ふああああつ♡

触手の体液の催淫作用で
ほとんどん身体を敏感に
されていた私は、必死で
自分にそう言い聞かせ、
耐え続けました...

触手が私を犯すのを
やめてくれるまで...



結局：「一体何回
犯され、イカされたのか…」

それすら分からなくなるほど
私は絶頂させられ続け…

我に返った時には
周囲にはもう何も
いませんでした

そして最悪なことに…
私の大事な三振りの刀、
楼観剣と白楼剣が
持ち去られていたのです

こっぴどく敗北し
凌辱され、
家宝の刀まで
奪われたなんて…
面目丸つぶれどころ
じゃありません

せめて刀は自力で
取り返さないと…

そう考えた私は体力の
回復を待つで、洞窟を
さらに奥へ進むことを
決意しました…



しかし刃を奪われ
洞窟内の妖気や催淫液に
身体が蝕まれた状態では
今まで軽々退けできた
妖怪も非常に危険な
相手と化していました

えっ、あ、
しまった…っ!!

特に後者の影響が深刻で、
私の得意の体術もその牙えを
大きく失っていで！

かわせると思った
攻撃に脚をとられて、
瞬間にこんな格好に…





植物のようなツタを
あちこちから伸ばして
襲ってきていた。それは
私が反撃できない状態に
あると見て取ったのが
足元の地面から本体を現した

うっ!!

そ、そんな所に...っ

な、何をっ

そ...っ

ず
ず



あつ!!
あつ!!

そ、そんな所
ほじつても、
何も、無い...っ

うああつ!!

やだっ、
こいつ...!!

あああつ!!

ひよつとしてこの洞窟の妖怪は
皆こんないやらしい奴らなの...?
と思いついたのはこの時でした!

ビッ

グッ

ビッ

ビッ

ビッ

グッ

ビッ

グッ

グッ
グッ
グッ

グッ



お尻に
お尻に

しかもそれだけの
責めはそれだけに
留まらず

ふざいて??

そ、そこ、
お尻に...!!

っっ!!

想像だにしない展開で、
私はどうすればいいのかわ
分からなくなっています...

まさか、お尻にまで
突っ込まれるなんて...

ビク
ビク

ビク

ビク

ズグ
ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ



い、いくら
やっただってっ！

ふあっ♡

こっ、こんななのっ！

あっ♡

私はっ、へ、
平気なんだからっ！

む、無駄っ、
無駄よっ！

あ、ああっ♡

それは、足元の妖怪に
対してというより、
むしろ自分に言い聞かせて
いたのかもしれない！



蓄積した快感が私の許容量を超えて...

そんな私の様子など意にも介さず、いつは私の中を弄り続け...

でも大丈夫これくらいなら、まだ我慢できる...

...こんなことでこんな簡単にイカされちゃうなんて...

んんんんうっ

んんんっ

んっ

びびっ

びびっ

んんんっ

びびっ

びびっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

びびっ

んんんっ

びびっ

びびっ

びびっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ

んんんっ



そいつの目的も、当然！

ひあつ!?

そ、そこはダメえつ!!

拡げるなあつ!!

肌に触れられるだけでも
敏感になりすぎて
痛いくらいなのに、アソコ
なんて触られたら...

あ、あつ!?

じつは、ばたに
フチが、灼ける
みたい...っ
蕩けそう...っ!!

んあつ!!

じつは、ばた

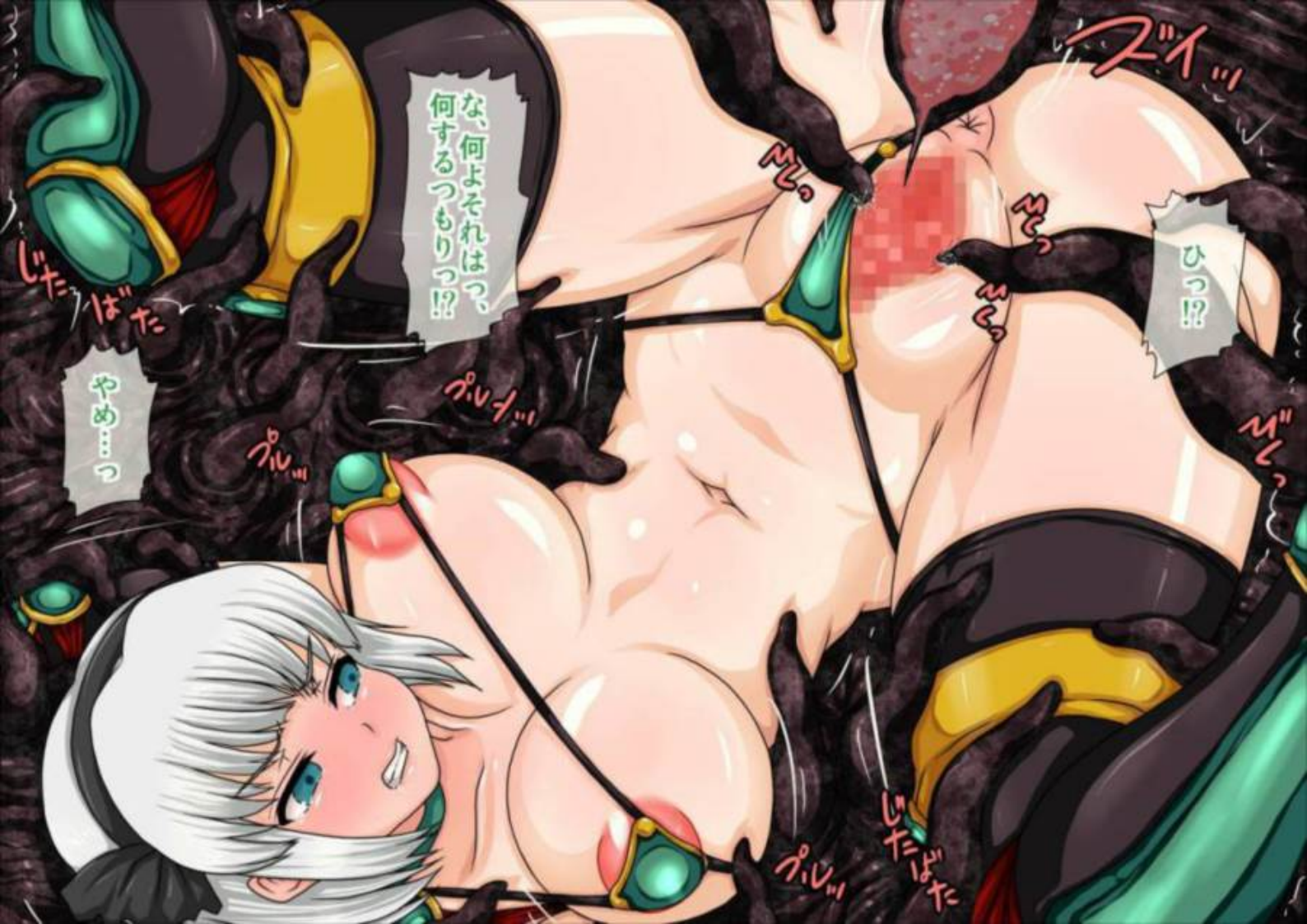
ぞし
ぞし

んあつ

んあつ

んあつ

じつは



ズイッ

な、何よそれはっ、
何するつもりっ!?

ひっ!?

ズッ

ズッ

ズッ

やめ...っ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ



何をされてもイキまくり、
気持ちよすぎて死にそう...
というのほざつと
こういうことを言うの
だらうと思います...

いひいひいひ
いひいひいひ

ひーっ
ひー、ひーっ

もうあちこちが
敏感になりすぎて、
何が起こっているのか
私には全然
分かりませんでした

ふひっ



ただ胸や顔にまでかかった
べとべとの本気が
私の晒したであらう
浅ましい醜態をはつきりと
示していました！

んはあああああ〜っ♡

あ〜っ♡

ああ〜っ♡

あ〜っ♡

その後一体どうやって
解放されたのか
私は全然覚えていません！



ドキッ

ぢゅんぢゅん

あっ、あっ!!

「一応私は、
剣が無くともそれなりに
戦えるんですよ」
事実この探索でも、
結構な数の妖怪を得意の
体術で追い払ってきました

ぢゅんぢゅん

「それが裏目に
出たことも、
あるんですけど…」

アッ

アッ

蹴りを出そうとした所を
絡めとられ、そのまま
釣り上げられそうになって
バランスを崩し、こんな体勢に…

しまった…っ

がはっ



あっ...いのこ!!

ズルッ...

巻きつくなっ!

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

く、くすぐりたい...っ!

ズルッ

ズルッ

ズルッ

でも、これくらいなら
今までの奴らの責めに
比べれば大したこと...



んふっ!?

それが媚薬粘液を
たっぶり含んで
私の弱い所をゴシゴシ、
ゴシゴシ...

そいつの表面の凹凸は
よく見るととても
細かいブラシ状に
なっていて!

そう思ったのも
東の間!

ふぐううっ

んんんうっ

んんうっ

特に先刻の責めで
ピンピンに
勃起しちゃってる
クリや乳首なんて
気が狂いそうなんど
気持ちいい! っ

ふうっ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ



私は触手が股間や胸を
擦り上げる度に
何度も何度も繰り返
いかされ

もっ♡
やめっ♡

あっ♡

ああっ♡

んはあああっ♡

私がいつても
触手は動きを全然
緩めてくれません！

もう立っているというよりも
私を釣り上げている触手に
支えてもらっているという
ような状態でした！

！ですから、
当然足元から
忍び寄るもう一本の
触手に気付くことも
できなくて！

あっ♡

あ

ガクガク

ガク

ブシヤッ
ブシヤッ
ブシヤッ

ガク
ガク

ガク
ガク
ガク

ゴシ

ゴシ
ゴシ
ゴシ

ゴシ
ゴシ
ゴシ

ゴシ
ゴシ
ゴシ

ゴシ
ゴシ
ゴシ

ガク
ガク

ブシヤッ
ブシヤッ

そしてその快感も
あつという間に私の
許容量を超えていきます

だって、
その挿入された触手も
他と同じ表面がブラシ状に
なっていて

んぎひいいい
いいいいいっ♡

んぎっ
ひっ♡♡

ふぎひいいいっ♡

ひいいいっ♡

媚薬粘液のたっぷり染み込んだり
それで膣内をしごきまくられたり
なんかしたたら、刺激が強すぎて
もう何がなんだか
分からなくなっ
てしまいます…

それでも私の理性は
耐えようと、必死で
歯を食いしはるのですが…



触手は容赦なく注挿を
速め、私を絶頂へと
追いやってしまうのです...

んうっ♡

くううっ♡

いく、いく
いく、いくっ♡

いぐうううっ♡

ふううううう
ううううっ♡

また我慢
できなかつた...

私こんなにな
はしたくない女
だったの...っ？



…何度も繰り返し、
襲われている内に、
私の身体は性的な刺激に
ますます弱くなつて
いつているようでした！

あつ、あつ！

んあつ♡

あつ♡

ああつ♡

この時は、股間を
無数の触手が
伸びてきていましが、
他には一切拘束されて
いなかった筈なのに…

まるで抵抗できない
なんて、悔しい…っ



触手は、みっちり詰まって
私の中をかき回します

くうんっ♡

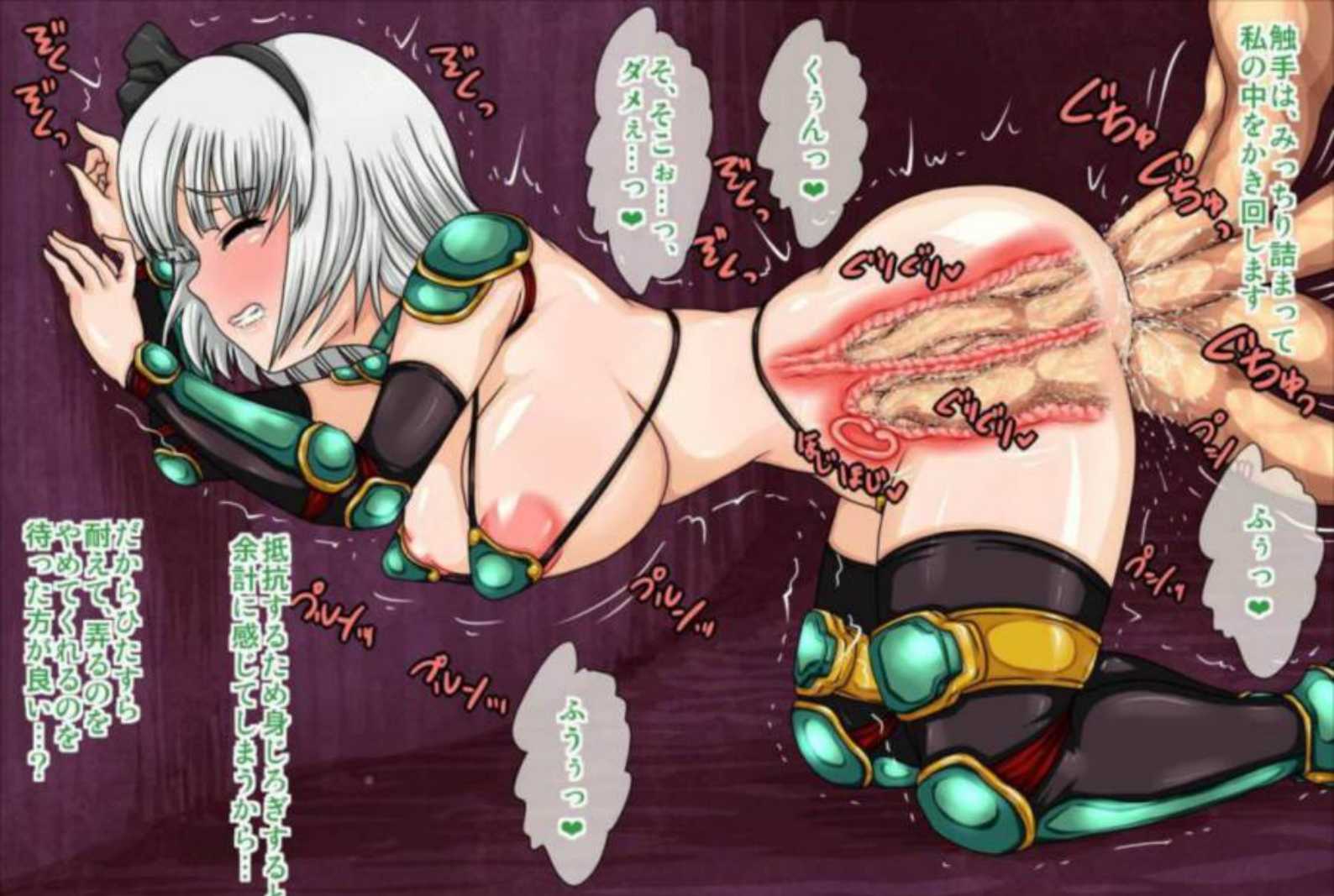
そ、そこお...っ
ダメえ...っ♡

ふうっ♡

ふううっ♡

抵抗するため身じろぎすると、
余計に感じてしまうから...

だからひたすら
耐えて、弄るのを
やめてくれるのを
待った方が良くない...?



そ、そんな……
訳、ない……っ

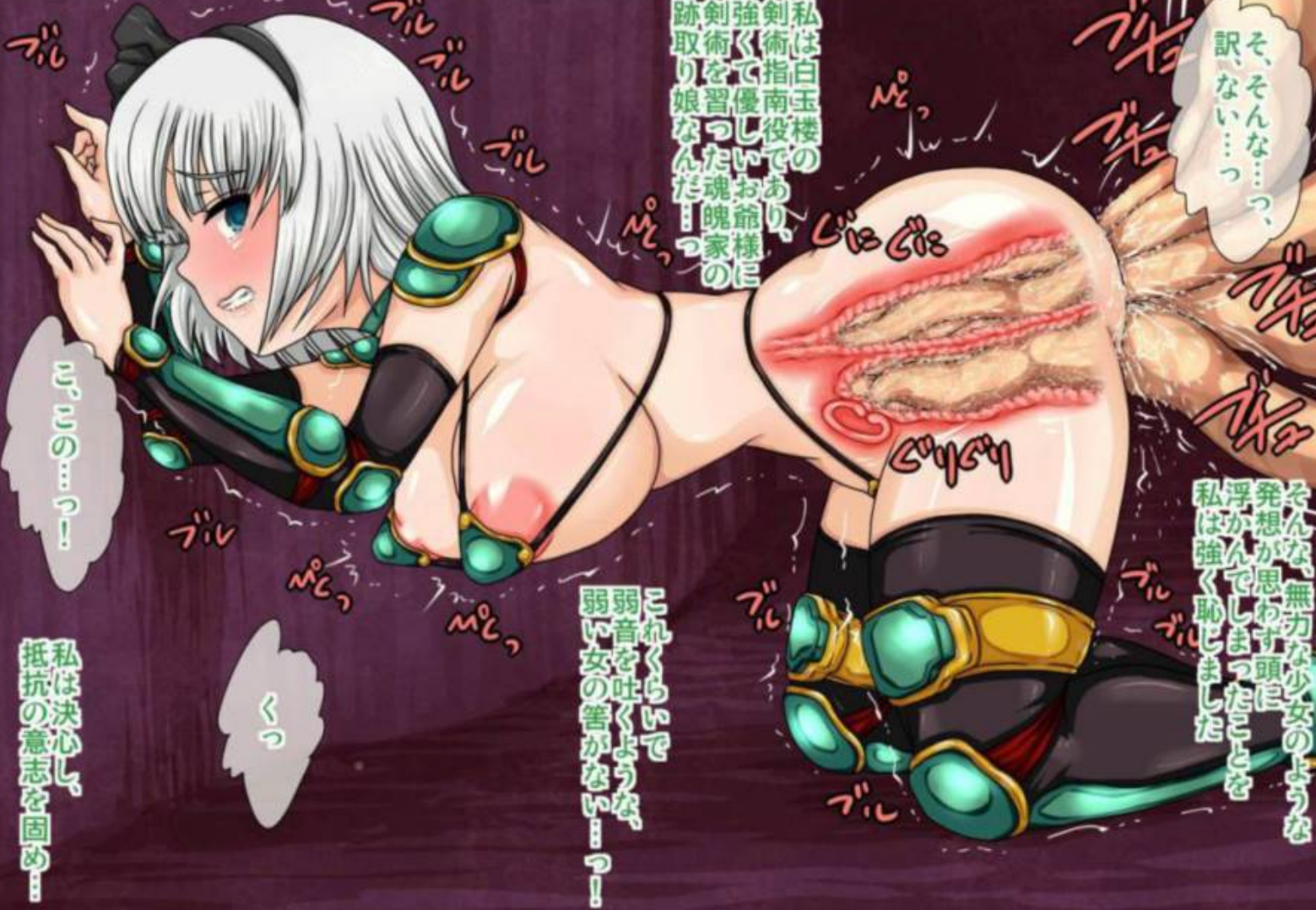
私は白玉楼の
剣術指南役であり、
強くて優しいお爺様に
剣術を習った魂魄家の
跡取り娘なんだ……っ

そんな、無力な少女のような
発想が思わす頭に
浮かんでしまったことを
私は強く恥じました

これくらいで
弱音を吐くような、
弱い女の善がない……っ！

ん、この……っ！

私は決心し、
抵抗の意志を固め……





す、吸うっ。
なあっ♡

ひっひっ♡

ふ、ふぐっ♡

クリを弄られると
まるでスイッチで動く
玩具みたいだ、身体が
意志を離れて勝手に
変な反応しちゃうっ！

元々敏感だったところは
繰り返し触られては
もはや私の意志では
どうしようもない
弱点になっていて！

ひっ♡

ひっ♡

ふぐううっ♡

いいや、みたいいじゃない
私はまさに玩具に
されているんだ！っ

クリをつねられ
こねられ、その度に
みつともない反応を
させられながら私は
そう思いました！

本来なら一瞬で
斬り倒せるような
雑魚相手に、な
玩具にされるなんて
情けない！っ
恥ずかしい！っ

い、いくっ♡

おほおおっ♡

いくっ♡

んほおおっ♡

んおっ♡



そんな私の反応に
気を良くしたのが...

あ、あつ!!

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

だ、ダメっ
激し...っ

あっ

あ、ああっ

触手の動きは激しさを増し、
私のおまんこ汁を
大量にかき出します

この！暴れるように
注挿がヒートアップする感じ、
私には覚えがありました

い、嫌っ!!

嫌、いやあつ!!

でもいくら
抵抗しようとしても、
ピストンに感じて
腰を使っているような
動きしかできなくて!



人語を解するタイプの
妖怪は、知性が高い分執ように
私を追い回しました！

へへへ、やっと
追い詰めたぜ
妖夢ちゃん

あつ、く、
来るなっ！！

朝方にはよくも
刀で追い回して
くれたなあ？

たっぷりお礼を
してやるぜ

あ、あ……っ！！

そいつは私が刀を
奪われる前に退治した、
腕が複数ある大男の
妖怪で……

パレツッ

パレツッ

パレツッ

パレツッ

へへへ、刀を持ってた時は
あんなにおっかなかったのに
よく見てみれば可愛い身体
してるじゃないの

くっ、やめっ！

プリプリしてて
大っきいお尻♪

ほれほれ、乳首
引っ張っっちゃうぞ

く、うううっ！！

ひ、卑怯者…っ

刀さえあれば、
お前なんか…っ

実際、体調が万全なら
徒手空拳でも恐らく勝てる
相手だったと思います

でも、その時の私は
身体は火照って
満足に動かせず…

ブルッ

ムニッ

ムニッ

ギムッ

モニ
モニ

ブルッ

ちよつと触られただけで
全身が快感に身悶えて
しまうような有様で……っ

へへ、御開帳〜♪

あぁっ!!

嫌あっ!!

ふひひ、可愛い
オマンコしちゃって♪

み、見るなあ……っ!

下卑た言葉一つ一つが
羞恥心を刺激し、私は自分の
意識させられない姿を余計に
意識させられてしまします……

かぁぁ

ぐい

ぴん

ぴん

ぐい

ドキッ

ふん

ふん

ふん

ぴん



ひひひ、もう
我慢出来ねえ

や、やだっ！
やめろっ！！

あっ！？

じたばた

そしてやっぱり、
こいつもー！

ひひ、そんなに
ケツ振って
挿れられるのが
待ち遠しいのかな？

でもそんなに
暴れられたら
挿れにくい！

じたばた

ギョッ

ギョッ

じた

なっ、と！

ふっ!!

頂きま〜す♪

くううううっ!!!

ビクッ

ビクッ

ビクッ

グッ

グッ

グッ

グッ

何でっ、
どいつもこいつも
私を犯そうと
してくるのよーっ!!

うっ、ふううっ♡

…その洞窟の妖怪たちが、
そもそもそういう生態の
連中ばかりだということ
前もって知っていたら、まだ
少しは別のやり様も私には
あったのかもしれない！

ひひひ、すげえ
締め付けた

うっ、くうっ!!!

ふううっ♡

どうだ、一度は
あっさり倒した奴に
オマンコ犯される
気分はよ?

う、うるさ...いっ!!!

ふっ♡

ふっ♡

くうっ♡

そんなのっ、
お前にはっ、あっ、
関係無い...っ!!!

そんなの屈辱的に
決まってるじゃない...っ

何より中を擦り上げられる度に
気持ち良くなってる自分自身に
一番腹が立つ...っ

アッ
ゴッ

アッ
ゴッ

アッ
ゴッ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ



こんな奴に無理やり
犯されてるのにつっ
私何で...っ!!

ああ気持ちいい、
もう出るぜ
妖夢ちゃん♪

なっ!?

オラオラ
出るぞ出るぞ
出るぞ...っ♪

い、嫌っ!!

あっ
♥

中はっ、
中はダメ...っ!!

あ、あっ
♥

こんな奴に、
見られたくない...っ

今の私のっ、
中出しされた時の
顔を...っ!!



そう思つて、必死に
身体を揺すつても
そんなのろくな抵抗に
なる筈もありません！

オラっ！
ザーメンマーキング
してやるぜっ！

ふううううっ♡

くうううう
ううううんっ♡

いきたくないのに、
いつちやういっ♡



あ、あ…、
また、中に…っ

あんなに腰使われたら
出しちまうに
決まってるだろ

むしろ催促してるのかと
思ったぜ妖夢ちゃん♪

そ、そんな、
ことをお…

ひひひ、
今日は溜まってる分
全部この穴の中に
出してやるからな

や、やだ…
やだあ…っ

やああ…っ

それから私はそいつが
満足するまでオナホの
ように使われ続け…

何十回もイカされ、
イキ顔をばっちり
覚えられました…

ストロ

ギョッ

ギョッ
ギョッ

ビキッ

フリ

フリフリ



何者っ!?

やっ!!

透明人間のように
姿の見えない敵にも
襲われました

ま、待って…っ

あ、あっ!?

そいつは強引に私の
服をはだけせると
後ろ手に腕を掴み…

ぐいっ

ぐいっ

ドキッ

びゅっ♡

びゅっ♡

びゅっ♡

びゅっ♡

びゅっ♡

ぐいっ



一際強く突き込んだかと思
うとそのまま一番奥に
押しつけて中出しっつ

ふうっっ ♡

子宮を通して
全身が灼かれるような
この感覚っっ

何回されても
慣れないどころか、
私どんどん弱く
なってきたる
気がするっっ

んぐううううっ ♡

ふううううっ ♡

んぐうう

ビュッ
んぐう

んぐ

んぐ



でもそれは、ある意味
小休止の合図でもあります

それは、剣士としても
女としてもシヨツクな
ことではありました...

...また、中に
出された...

...んあつ♡

はあ、
はあはあ...♡

この間に息を整え、
体力を回復させて
振り払う算段を...

はあ...



今回の相手は射精したばかりにも関わらず全く変わらぬ調子でピストンをすぐに再開してしまつたのです

こっちは精液を注がれ、絶頂したばかりで、恐ろしく敏感になつてゐるのに...

！算段をつけることはできませんでした！

あぁあぁっ♡

そんっ、なっ♡

ひぁあぁっ♡

んはっ!!

あぁっ!!



ピストンの勢いが強すぎて子宮の形が歪むほど奥までおちんちんを突っ込んできたのです...

子宮...? 潰れるぅ...っ♡

んごほおおっ♡

おほおおっ♡

しかもその所はそれだけではありませんでした



...やっ、くっ

アハハハ

くうっ

身体が思うとおり
動がなくなつて、
群がってくる雑魚も
本當に脅威になりました

は、離れるおっ!!

中でもスライムは
私の弱い所にへばりついて
愛撫じみた蠢きを繰り返すので
たまりません!!

何とか私は
引きはがそうと
するのですが!

じゅわん

じゅわん

くううっ

ガッ

じゅわん

じゅわん

じゅわん

じゅわん

じゅわん

ドキッ

あ、あつ!?

ゴッ

ゴッ

スライムは瞬くうちに
形を変え、私の腕まで
包み込んでしまっ!

ブル

ブル

ブル

…う、嘘っ、
抜けないっ

グッ

グッ

グッ

引きはがすどころか、
後ろ手に縛られたも
同然の状態になっ
てしまっ、
私どうすればいいか…

グッ

ブル
ブル

…あつ!?





今まで愛撫してくるばかりだったスライムがまた形を変え、おまんことお尻の中へ！っ

んんっ♡

んんんんんっ♡

んんーっ♡

それで私の抵抗を封じたとか判断したのかどうか！

こんな奴にまで、何も出来ず、大事な所を犯されるなんて！っ

んっ♡



私の中に入った
スライムはそこでもまた
形を変え蠢きまくり！っ

ググッ
ググッ
ググッ

大事な所の形まで
好き放題に変えられて、
腰がガクガクする！っ

ググッ

ふひひっ♡

ふひっ♡

ひっ♡

んいっ♡

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ



でも私にただ快感に
翻弄されてる
暇はありません！

だ、ダメっ♡

今っ、
揉んじやつ♡

んいつ♡

私が身悶えてるのを
チヤンズと見たのか
周囲の様子を窺って
奴らが胸に飛びきた
責めを加えてきたので

ふうふうっ♡

グググ
グググ

ググ
ググ

グググ

ムッ

ムッ
ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ
ムッ



スライムの先端が、
私の子宮の中まで
入り始めたのです

そ、こはああっ♥

大事な、場所…っ♥

っ!?

んあああっ♥

そこへ、また新たに
目の覚めるような
刺激が走りまわりました

ふああああっ♥



おっ♡

おほっ♡

スライムのつるりとした表面が子宮を撫でるたび、形容しがたい気持ち良さと息苦しさが同時にこみ上げます…

ほおおっ♡

その快感を我慢出来ず、私は腰や背中をもじもじ動かすのを止められません

んほおおっ♡

スライム共のど真ん中で、くねくね悶えるばかりなんて…何をやってるのよ、私は…っ

もじもじ

もっ

おっ♡

きゃん

きゃん

もじ

もっ

ブルブル

ブルブル

ブルブル

きゃん

きゃん

きゃん

きゃん

ブルブル

ブルブル

きゃん

もっ

もじ



それから私は、スライムたちに
にまで次々と輪姦され
イカされまくりました！

んほおおお
おおおおつ

おつ、おおつ、
おつ♡

イくイく
イくイくつ♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

キムン

キムン

キムン

キムン

キムン

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

プニャッ

プニャッ



…そうやって、数々の
困難にくじけそうに
なりながらも
私は洞窟の中を進み…

…くっ…くっ…
こいつ…

ただ私はこっそり忍び寄って
刃を奪い返し、反撃に
転ずるつもりだったのですが…
身体が思うように動かないせいで、
またこんなことに…

とうとう
楼観剣と白楼剣を
奪った妖怪を再び
見つけることが
できました！

か、刀を返せ！

グイッ

グイッ

グイッ

グイッ

グイッ

グイッ

グイッ



あつ!!

んはああああつ

信じられないことにそいつは、
楼観剣を鞘ごと私のアソコに
思いつきり、つ、突き立てたのです…

そしてそのまま、
じゅぼじゅぼと…

ああつ
ああつ

ダメえええつ

ドクドク
ドクドク

ドクドク

ドクドク
ドクドク

ドクドク

ドクドク
ドクドク

ドクドク



ふあつ
あぁあつ

わ、私の…つ、
楼観剣があ…つ

今まで散々翻られてきたせいとか、
その注挿に痛みはほとんど
ありませんでした…

あぁあつ

むしる力強くアソコを扶られ、
ゴツゴツと子宮を突かれまくるのは
たまらなく気持ち良くて…つ

愛刃が、私の
愛液で穢れていく…つ

やめえつ



イヤイヤをする私の
お尻に、今度は白楼剣が
突き立てられます…

んひひひっ

こちらも痛みは無く、
蕩けきった私の穴に
その堅さはむしろ
心地よいくらい！

ひっ、イイっ



あ、ああ...♥

家宝とも言える
楼観剣と白楼剣を
いやらしい道具のように
扱われ、怒るべき所で
快楽に悶えて...

あまつさえ自分の本気汁で
べとべとに穢してしまふなんて...

お爺様や幽々子様に
申し訳なさすぎて
もう立つ瀬がない...

あ...♥

あああ...♥



どうやら私は
気を失っている間に
触手に飲み込まれて
しまったようだ!!

...う...う...ん

次に目を覚ました時
私は触手の食道(?)の
中にいました!!

...う...う...



ズレッ

……っ

性器を責められて
気絶するなんて
また失態を
重ねてしまった……っ

そう、自分自身の情けなさに
怒りを覚えると同時に、
敵への怒りも再燃しました

私の大事な刀を、
あんな使い方を
するなんて……っ!!

絶対っ、
絶対許さない!!

決意を新たにしたら私は
まずこの肉の筒から何とか
脱出しようと同田の様子を
確かめてみました……っ

とっ

もぞ

もぞ

とっ

もぞ

とっ



あっ!!

ところが身じろぎした私の動きで気が付いたとバレてしまったのでしようか

い...、嫌っ、寄るなっ!

周囲の肉ヒダから大量の触手が這い出てきて...

気持ち悪いっ!

ズワッ

ズワッ

ズワッ

ズワッ

ズワッ

グワッ

グワッ

グワッ

ああっ!!

グワッ



おまんこ
そんなに
入らないっ

い、嫌っ、あつ、
あああつ

お尻も
ダメえっ

まず下半身を呑み込み、
敏感な所を滅茶苦茶に...

ああつ
ダメっ

ブツッ
ブツッ
ブツッ

びびっ

びびっ

ブツッ
ブツッ

ブツッ
ブツッ

ブツッ
ブツッ
ブツッ

ブツッ
ブツッ



数十、数百の触手が
アソコやお尻の穴は勿論
腰や太腿、膝裏や爪先に
至るまで好き勝手に
觸りまくるのを
私はただ耐えるしか
ありませんでした！

元々せまつ苦しい
食道の中で私に
逃げ道はありません！

そして触手は、
上からも！

んふううっ

ふふううっ

ふうううっ

グジュ

グジュ

グジュ

グジュ

グジュ

グジュ

グジュ

グジュ

グジュ



んぶうううう
うううううっ ♡

...もうそこからは、
本当に訳が
分かりませんでした...

全身の性感帯が
同時に責められてるのでは
ないかと思うほどの激感...

気持ちよすぎて、私は
気が狂いそうでした...

んんんんんんんっ ♡ ♡ ♡



私はまた激しく
イカされまくり...

再びいきすぎに身体が
耐えられなくなつて
気絶するまで
何度も何度も無理やり
絶頂させられ続けました...

グニャ
グニャ

んんんっ♡

んんんっ♡

んんんんっ♡♡♡

んんんんっ♡♡

グニャ
グニャ

グニャ
グニャ

グニャ
グニャ

グニャ
グニャ



触手のプールの中、
私は目を覚ましては
イカされまくって
気絶させられ...

また目を覚ましては
イカされまくる
そんな時間を延々と
過ごさせられました...

そうしている内に...

ふっ
やめっ

ふっ

ふうっ

くうっ



んああつ♡

敏感っ♡
だからあつ♡

だ、ダメえつ♡
揉んじやつ♡

大量の愛撫と発情粘液で
パンパンに張った私の乳房は、
まるでそれ自体が巨大な
クリトリスのように恐ろしく
敏感になっていました

あああつ♡

それを、形が歪むほど
揉まれるの...♡
たまらない...♡

ああああつ♡



…ふっ、ううっ♡

ま、まだイカされた…っ

うう…っ♡

今は、触手の活動も比較的緩やかで下半身の凌辱は殆ど止まっているのに、愛撫だけで…っ

ううう…っ♡

私は、自分がどんどん淫乱な身体になっていくことを自覚して、恐ろしく思いました…

もっと、耐えなげやいけないのに…っ

モ…

モ…

モ…

モ…

モ…

モ…

ぞっ

ぞっ

ぞっ

ぞっ

びきっ♡

びきっ♡

びきっ♡



触手は小休止を終え
また活動を再開して
しまったようです！

んんんんんっ♡

そう思った矢先
新たな触手が
私の先端に吸い付き
また私は軽く
イカされてしまいます

んんっ♡

んんん

んん

んん

グググ

グググ

んんん

んん

んん



いぐううううううっ

いっ、いぐっ、いぐっ

もういってるのにつ、
またいぐっ

硬く勃起した先端から、
私の快感が形になつたか
のようなものが噴き出
しました!!

どゅっ

びゅっ

どゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

びゅっ

びゅっ



…あ、あっ♥

何っ、今の…っ♥

…そう、
そうしている内に
私の身体は母乳が出る
ようになっていました

あっ♥

あっ♥

あっ♥
あっ♥
あっ♥

本来なら愛する人との子を
育むために出る筈のそれが、
自分の場合妖怪なぞに
賜られた結果だという事実は
ことさら強いショックでした！

もっとも、このままでは
穢されてしまつては
平穏な家庭を築くなど
もはや夢のまた夢
でしようが…

私男の人とは手を
繋いだこともないのに…っ

いやあ…っ♥



：気が付いた時
私は巨大な肉袋：胃袋？
のような所にいました！

…ううう…
うう…

くうう…ん

でもそこで蠢く無数の触手や、
洞窟内のそれを何十倍にも
濃縮したかのような淫靡な熱気に
そこが単に食欲を満たすための
場所ではないことは明白で！

濃密な淫気に
晒されてるだけで、
アソコが疼いて、
イっちゃいそう！

うう…

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん



……くっ、よくも
おめおめと……っ

……あっ!!

お前だけは絶対に
許さない、絶対……っ

……そう、精一杯
意気込んでみても……

そしてそこに現れたのは
忘れたくても忘れられない
私の……は、初めてを奪った
あの……っ

ズッ……

あは

びん

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは



あっ、あっ

あっ

いやむしろ、私の身体はここに来るまでには受けた凌辱の数々であの時より何倍も淫猥になっていて……

あああっ

悔しいっ、悔しいのになっ、気持ちいいっ

ピストンされるたびにっ、マン肉擦れてっ、子宮突かれてっ

あああっ

こんなの我慢出来る訳ない……

んあああっ



ふっ、ふうっ ♡

だ、ダメ…っ ♡

前だけでもこんなに
気持ちいいの…っ ♡

ふううっ ♡

すっかり開発されて
おまんこみだいに
とろとろになつてるお尻に
まで挿れられたら…っ ♡

っ!!

ぐっ ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡

ん ♡



自分が
どうなっちゃうのか
分からない...っ♡

んっ、はああああ
あああああっ♡

凄いつ♡
今までのどれより...っ♡

私の浅ましい
メス穴は、歓喜の声を
上げるかのように
大量の本気汁を
噴き出しました...♡

あああああああっ♡

ゴッ♡

ゴッ♡
ゴッ♡
ゴッ♡

ビッ

ビッ

ビッ♡

ビッ

ビッ
ビッ
ビッ

んっ♡
んっ♡
んっ♡
んっ♡

ビッ
ビッ



00
抜き挿しされることに
普通の女性なら一生かけても
味わいきれないほどの
快感が脳裏に弾け

私はひたすら股間をほじられる
快感を享受するだけの
媚肉の塊にされていました

んおおっ

おおおおっ

おほおおっ

その時の私は
絶頂まで昇りつめ
戻ってくるのが
できませんでした

おっ

んほおおおっ

フニャッ

フニャッ

フニャッ

ズンズン

ズンズン

ズンズン

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン



そしてそんな状態で
子宮とお尻の奥へ
精液を注がれたりしたら...

おっ

おっ

いくっ
いくっ

もうイってるのにつ
いきまくってるのにつ

またいくうううっ

おほおおおお
おおおおお

もうひとたまりも
ありませんでした

…う、あ、あ…っ♡

私…っ、
なんて真似を…

自分が…もつとも
憎い相手に犯されてすら、
狂態を演じてしまった
ことはもう否定しようが
ありませんでした

本当に…嫌なのに、
嫌だったはずなのに…っ

ああああ…っ♡

どうして私、
あんなに気持ちよく
なっちゃうの…っ!?

私…っ、もしかして、
身体だけじゃなく、
内面まで変えられて…っ



そう私が
自分自身の反応に
戦慄させられていると！

まるで、今までののが
小手調べだったかと思
うほど、激しく！

んぎひいっ
ひっ

強すぎっ、
イイいっ

触手が今までにない
勢いでピストンを
再開しました





あつ、あつ♡

いくの
止まらない
いいいいいい♡

いくいくっ♡

いつてるのに
またいくっ♡

うあああああ♡

これじゃ私…っ

本当に戻って
これなく…っ♡

そしてしばらく経ち
快感の波が少しは収まって、
私は…

ああああ
あああっ!?

何っ、これっ、
私っ、何で…っ!!

私は、何が起こったのか
やはり、全く、
分かりませんでした…

…っ
♡

…あ
♡

…あ、あ…

あ…っ!?

ふふ

ふ

ふふふ

ふ

ふふ

ふふ

ガッ

ガッ

ム

ム

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ



いや、薄々分かってはいた筈なのですが、妖怪たちが何故女を犯すのか！

んほおおっ♡

でもこんな奴らとの間で私が子を成す訳が無いと、敢えて考えないようにしていたのだと思います…！

い、いきなりっ♡
抜いちや…っ♡

おおっ♡

グビョッ

ぞっぞっ

ぞっぞっ

ぞっぞっ

ビョッ

ぞっぞっ

リョッ
リョッ
リョッ



…う、うう…っ

やだ…っ、
こんなのやだ…っ

私っ、将来は
好きな人と一緒に
なつて…っ

その人とのっ、
子を授かるんだって
思ってたのに…っ

嘘…っ
こんなのっ、

私がっ、
こんな…っ

私は、これまで
味わつたことの無い深い
悲しみに暮れました…

ブル

ブル
ブル

だだ
だだ

だだ

アッ
アッ

アッ
アッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ



：が、
すぐにそんなの
消し飛ばされて
しまいました

んおっ♡

んほおおっ♡

な、何か出てっ♡

何か出て
くりゅっ♡

ほおおおおお
おおおおおおっ♡

その内側から
マン肉が引きずり
出されるような感覚は、
恐ろしく甘美で、
気持ち良くて……



…そいつは、私を常に拘束し続けるようなことはしませんでした

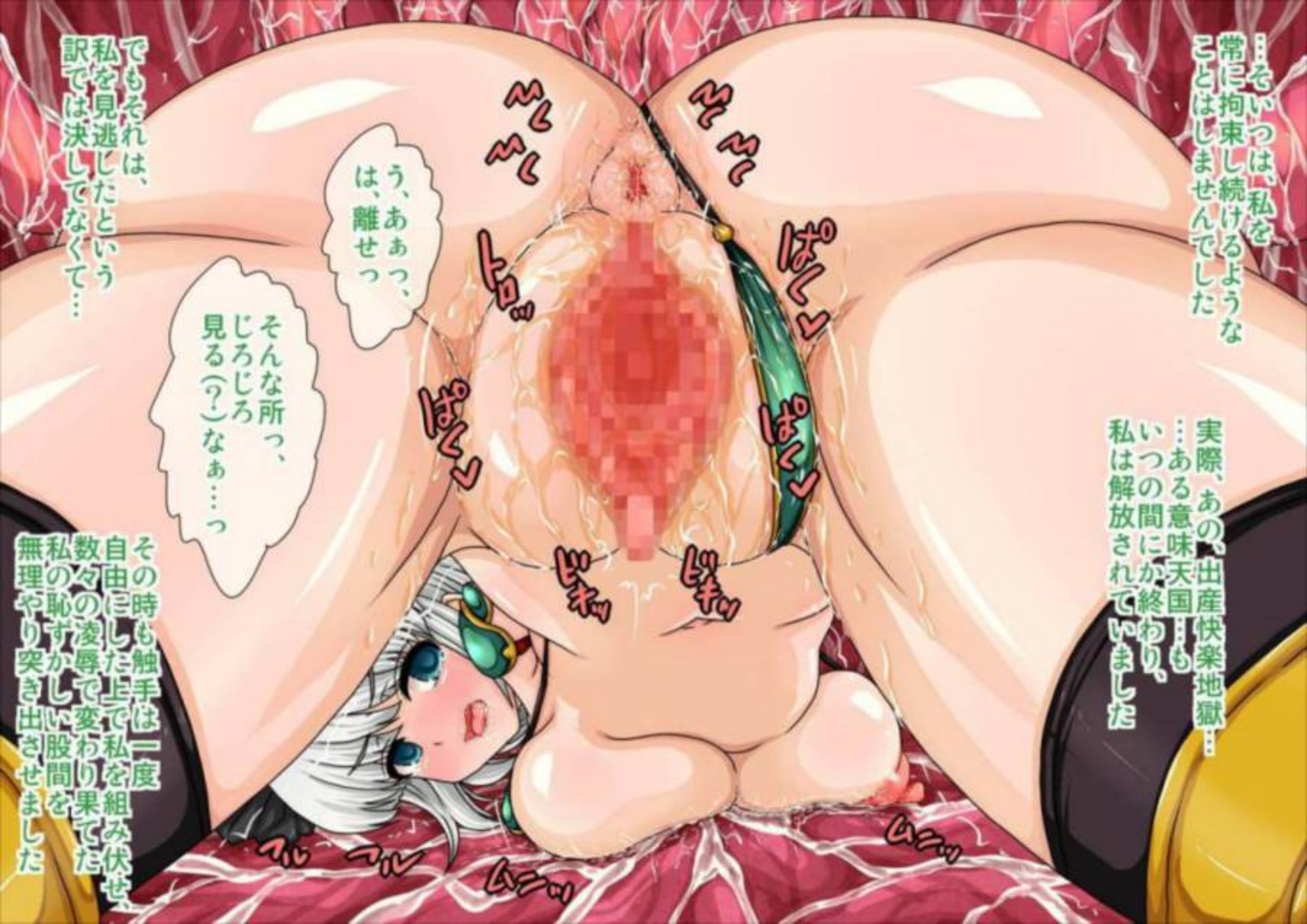
実際、あの、出産快樂地獄…
…ある意味天国…もいつの間にか終わり、私は解放されていきました

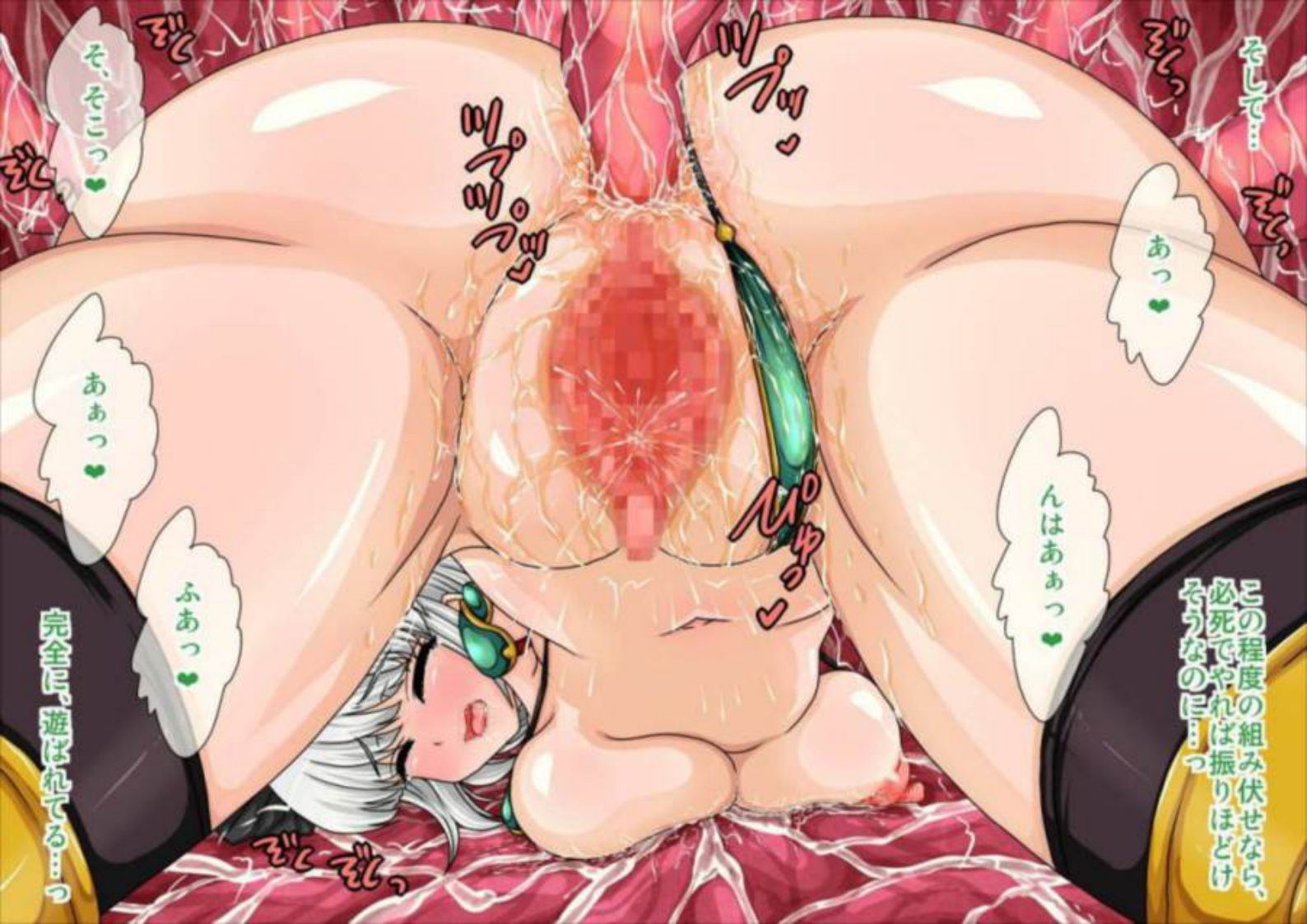
う、ああっ、は、離せっ

そんな所っ、じろじろ見る(っ)なあ…っ

でもそれは、私を見逃したという訳では決してなくて…

その時も触手は一度自由にした上で私を組み伏せ、数々の凌辱で変わり果てた私の恥ずかしい股間を無理やり突き出させました





そして...

あっ

んはああっ

この程度の組み伏せなら、
必死でやれば振りほどけ
そうなのに...

んんん

んんんんん

んんん

んんん

そ、そっ

ああっ

ふあっ

完全に遊ばれてる...

腹の中で獲物を敢えて自由にし、
驚ることで愉しむ悪逆な妖怪の
存在を以前聞いたことがあります

まさしくこいつが、
そういう妖怪の
一体なのでしょう

でもそれは好都合、完全に
拘束されてちや絶望的でも
これなら脱出の糸口を
見つける希望は、まだある…っ

…なのにお尻を
ほじられてるだけで
嬌声上げて、全身脱力して
腰くねらせて
何やってるのよ、私…っ!!

こ、これくらい、
が、我慢…っ

ふっ、ひっ

くいつ

ひいつ

んひいっ

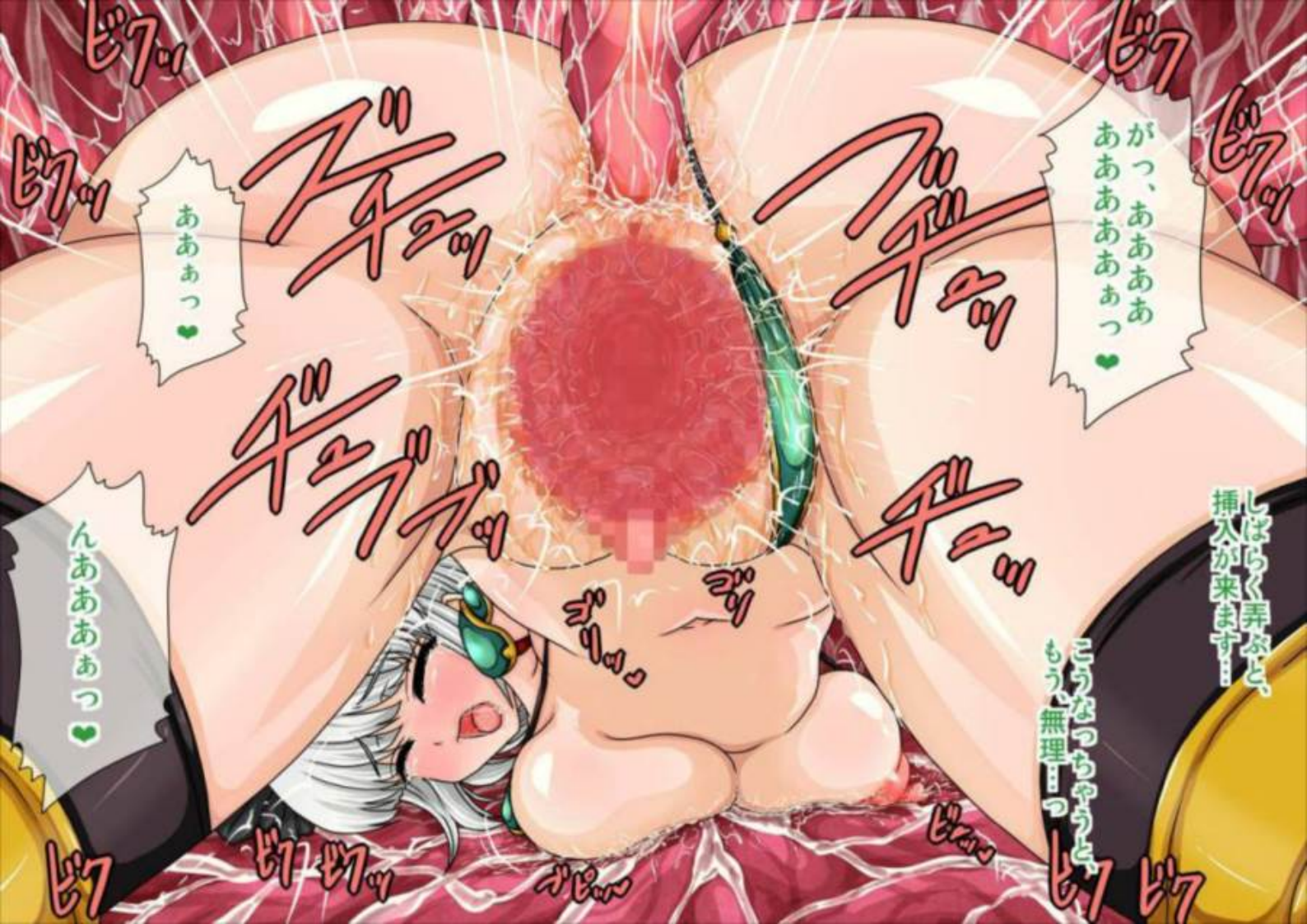
んんんんん

んんん

んんん

んんん

んんん



あああつ♡

がつ、ああああ
あああああつ♡

んあああつ♡

しばらく弄ぶと
挿入が来ます！

こくなつちやうと、
もう無理！っ

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

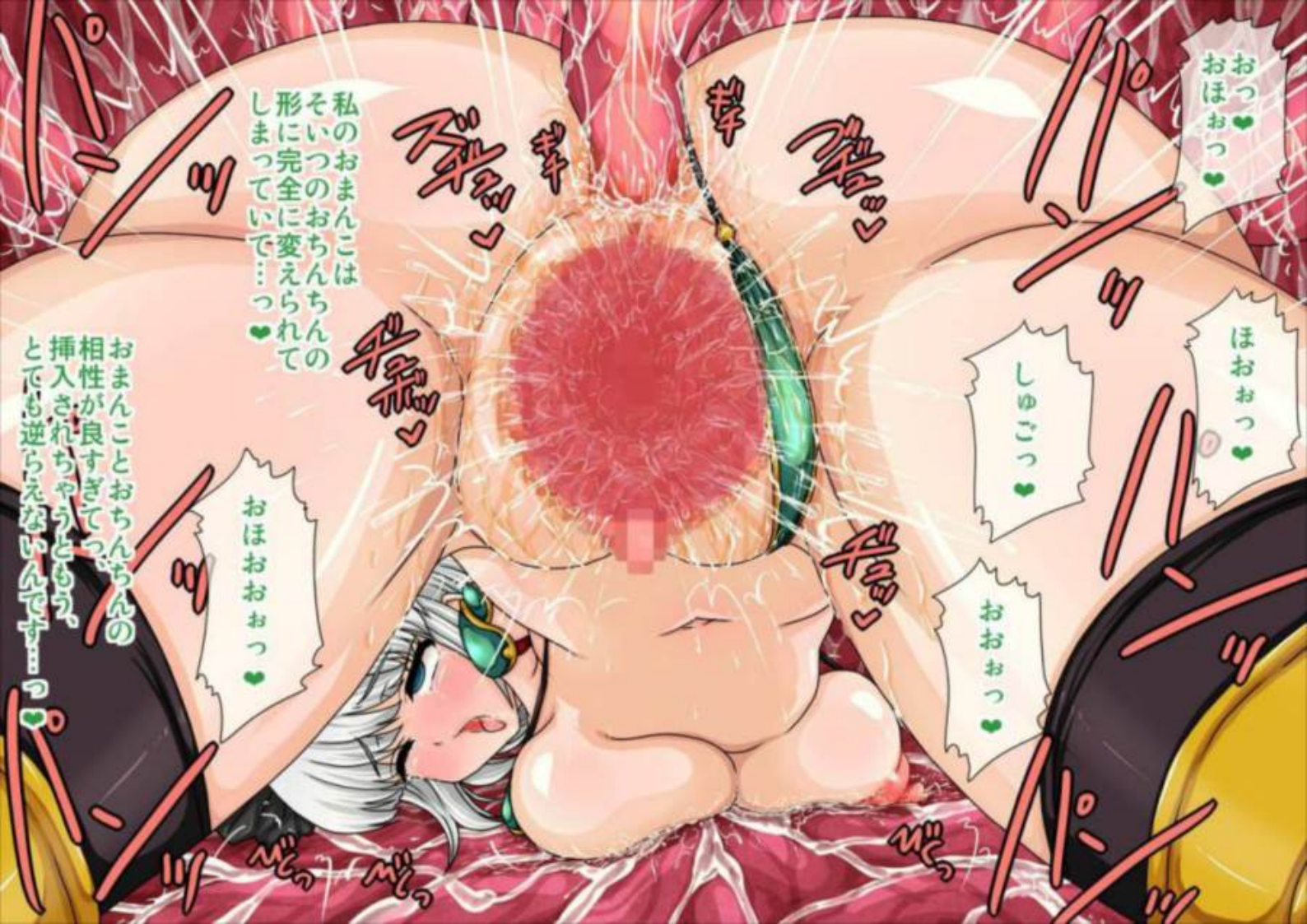
びび

びび

びび

びび

びび



おっ♡
おほおっ♡

ほおおっ♡

おほおっ♡

おほおっ♡

私のおまんこは
そいつのおちんちんの
形に完全に変えられて
しまっでいいっ♡

おまんことおちんちんの
相性が良すぎてっ♡
挿入されちゃうともう、
とても逆らえないんですっ♡

おほおおっ♡

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草



んほおおおおお
おおおおおつ♡

また、中出し！っ

中出しされちゃうと、
もう絶対、
逃げられません

だって…

んおつ、おつ♡

ドグ

ドグ

びび

ドグ

びび

びび

びび

びび

びび

びび



あ、ああ…っ

またあ…っ

お腹がこんなに膨らんで、
重く動けなくなつて
しまうから…

ゴッピン

ムム
ムム

こんな…っ ♡

私の身体は、こいつの
子種を受け入れると
すぐこんなお腹に
なつてしまうよう
変えられていたのです…

あ、あ…っ ♡



これが...気持ちよすぎて、
嫌悪感が自分の中で
薄らいでいつているのが、
凄く怖いんです...

そして新たな触手が
すぐに私の中から
産まれてきます!っ

ふざい
いいいいいい
いいいいいい

ふびふび

ふびふび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

捕まった私はそいつの
腹の一番奥にある
触手の牢とでもいうべき
場所へと戻されます

むっ♡

んぐっ♡

ぐううっ♡

むうっ♡

アッ
アッ
アッ

アッ

そこで私は触手の
おちんちんへと奉仕を
強要されます：
今回はくっ回で：

アッ
アッ

アッ

むううっ♡

アッ

こいつが満足すれば
気が緩むのか、牢の外へと
繋がる肉の膜が開くので
嫌でも奉仕せざるを得ません！

アッ
アッ

そう、これは仕方ないから
やっっているんです
そうしないところから
出れないから、仕方なく……っ

アッ
アッ

アッ
アッ

アッ

アッ

おちんちんに奉仕することを
私が愉しんでいるなんて、
そんなことある筈がありません……っ

んんうっ!?

んうっ♥

んんううっ♥

私がしゃぶるのに
集中していると、突然下から
強い衝撃が走りまじた





ぐんぐん♥

ぐんぐん♥

ぐんぐん♥

どうやら触手のプールの底から、
新たに三本のおちんちんが
私を貫いてきたようです…♥

でもこの部屋、こんなにおちんちんあつたっけ！
もしかして私が産んでるから？

なんてことを私が考えていると、
前の穴に入っていたおちんちんが
更に深く、私の奥へと潜り込んで…っ♡

これ、入っちゃ
いけないところまで、
入っちゃってる…っ♡

ふうっ!?

ふうふうふうっ♡

んうっ♡

んうううっ♡





そしてそのまま、
私の中をしごきまくり…っ♡

ふうっ♡
ふうっ♡
ふうっ♡

ふうっ♡

ふうっ♡

その激感から少しでも
逃れるため、私は必死で
口奉仕に集中します

そして



…ふうっ
ふうっ

ふうっ

…また、孕まされちやっただ！

この触手の牢から逃れるため、嫌なのをこらえて口奉仕までしたのに…っ

こんなお腹じゃ、逃げられない…っ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ぞしっ

ふうっ

ぞしっ



あ、もう産まれる……っ♡

んんんんっ♡

んんんんっ♡

んんんっ♡

また、この部屋で
奉仕しなきゃいけない
相手が増えちゃった……っ♡

びびび

びびび

びびび

びびび

びびび

びびび

びびび

びびび



快感に流され、逆らえず...

んんんっ♡

んんんんんっ♡

んんんんんっ♡

私から出てきた触手は、大抵最初の食事として私の胸を揉み吸ります

せつかく必死の奉仕で開けた肉の扉が、また閉じてゆくのを何も出来ずに見送ったことは一度や二度ではありませんでした

それもやっぱり背すじが蕩けそうになるほど心地よくて...♡

ぞし

ぞしっ

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ぞし

ぞし



肉の牢から運良く
脱出できた時も
少しはありました

んんん

ん

ん
ん

うう...っ
♡

ん

...うっくうっ
♡

んんん

ふうう...っ
♡

触手のプールの中を
突っ切ったせいで
そういつ時は大抵腰が抜けて
四つん這いでしか動けなく
なっていました！

んんん♡

んんん♡

その時は上手く奉仕で
満足させることが
出来てたように
触手もすぐには追っ
てきませんでした

んんん



こんな有様でも、
楼観剣と白楼剣さえ
取り戻せばさっさと
まだ戦える！っ

くっ
んんん

んん

それが壊れそうな
私を支える一縷の
最後の希望でした

刀さえ、刀さえ
見つけたら...っ



そんな頼りない希望を
支えに、私は必死で歩みを
進めていたのですが...

おっ、何だコイツ？

うひょろ
可愛い〜♪

見た所
親分の餌だろ
アツチのな
ぎひひひ

な、何です
あなたたちは...っ

回ぶりから察するに
そいつらはどうも触手の
腹の中で飼われている
奉仕種族のようでした

ここに私以外の生き物が
それも敵がいるなんて...

い、痛い目に遭いたく
なかったら、今すぐ
どこかへ去りなさいっ

ふん

ふん

ドキッ

あっ!?

んん

んん

ふん



何だあ〜？
生意気なメス
だなあ？

ひひ、俺は
これくらい
気の強い方が
好きだぜ

んはあっ♡

そ、そこ
触っちゃ…っ♡

ああっ♡

力が、抜けちゃう…っ

上と違って
下のお口は
素直みたい
だしな♪

恥ずかし〜っ

ブチッ

マン

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

……っ♡

恥ずかし〜っ



ほれほれ、勃起した
クリちゃん
引っ張っっちゃうぞ

相当親分たちに
開発されたんだろうが、
こんなにかくなる
なんておめえも
相当淫乱なんだろうな♪

ふあああつ

あああつ

それにしても
でけえクリだな!

そ、そんな
こと……っ

ない……っ

あ、あああつ

ML

ML

アハハハ

ギョウッ

ML

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ

アハハ

アハハ

アハハ



お、何だもう
イっちゃったぜ

ホントかあ〜？

ならこれくらい
平気だよなあ？

ふぎっ♡

やっぱり淫乱だ
淫乱だ

んひひひひひっ♡

ひっ♡

いやっ、私を
いやらしい女みたい
に言わないでっ♡

……っ♡

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ギョウッ

フッ

フッ

フッ



あくもう
我慢出来ねえ

へへ、ガッつき
すぎだぜ

ああっ!!?

やつ、待って……っ♡

そらよ!

んああっ♡

いやあ……っ♡

だって我慢できないぜ
こないやらしい女!

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

あゝマンコ
気持ちよすぎて
止まらねえ♪

この穴になら
何発でも出せ
ちやいそうだぜ

あつ♡
あ、あつ♡

お前ばっかり
ハメてんじゃ
ねーよ!

ひひ、親分が
起きるまで
俺たちの部屋に
連れ込もうぜ

賛成♪

ふあつ♡
待ってっ♡

それから私はそいつらの
巢に連れ込まれ
代わる代わるセックスの
相手を務めさせられ...

ふあああつ♡

最後には元いた
あの触手の牢へと
戻されました！





あっ

あっ

あっ

あっ

あっ

あっ

だっ、いやらしいことが
私持ちの良いいことだっ、
私は犯され始めて
すぐには気付いてしまっ
いたのですから！

いや、まだ
元の自分に戻れると
私か思いたがっ
だけなのかもしれません

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ

ブクッ



だって相手は、私をこの上なく気持ち良くしてくるんですから...

もっろ弄つれ...っ

お願いひまふう...っ

今まで禁欲的な生活を送ってきたけど、私に一度崩れると私に快楽に抗う手段はもうありません...

ふっ
ふうっ

そうなったらもう戦える筈がありません...

お、おまんこおっ

ムン

ムン
ムン

アッ

アッ

アッ

カ
カ

カ
カ

ふうううっ

ぽぽ
ぽぽ

ゴ

ゴ
ゴ

カ

カ



ふっ♡
ふっ♡
ふっ♡

んっ♡

んっ♡

んぶうううっ♡

触手の本幹と思しい、
私のお腹の形が変わるほど
ぶつとくて大きい
おちんちんでおまんこを
激しくしさかれながらっ♡

今までの開発は、コレを
私のおまんこが啜え込んでも
壊れないようにしてくる
ためのものだったのかな、
なんて思ってたっ♡

私のためにそんな手間を
かけてくれたなら
ちよつと嬉しい♪なんて
思っちやうたりしましたっ♡



私知りませんでした！っ♡

んっ!?

んんっ♡

びん びん

びん

びん

おん♡

おん♡

お腹にっ、子種を注がれるだけで
こんなにも幸せに
なれるなんてっ♡

んんんんんんんんっ♡

おん♡

びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん



もっどひてえっ♡

あっ♡

あはあっ♡

ああっ♡

ももっどおっ♡

あはあああっ♡

その結果、孕まされることにももう嫌悪感はありませんでした！♡

私を気持ち良くしてくれる相手の役に立ってるんですから、むしろそれは嬉しいこと！♡

何でもしまふからあっ、ご主人様あ…っ♡

私はこうして、剣主ではなくご主人様の奴隷として生きることを誓いました！♡

ビーン ビーン ビーン ビーン ビーン ビーン ビーン
ゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッゴッ

…それから、
どれくらいの時が
経ったのか…

閉じこもって
一体どうしたの？

私はいつの間にか、
お屋敷へと
戻って来ました

…あっ
あっ、あっ

あっ
あっ

とても脱出できるような
状態じゃなかったのに
一体どうやったのか！
自分でもよく分かりません

あっ

ちよつと妖夢？

随分長い間屋敷を
空けたと思つたら
帰ってくるなり
部屋に鍵までかけて…

でもそんなどうでも
良いことよりも…

ムッ
ムッ
ムッ

アハハ

グチャグチャ

グチャグチャ

ガ

ボク

ム





あああつ♡

あ、あつ♡

ふあつ♡

少しでも自分を慰めたくて
必死で弄り回すのですが
私の小さな手や細い指じゃ
全然満足できない！っ

おまんこが寂しくて
疼いて切なくて、
仕方ないことの方
私には重大でした

あああつ、
あああつ♡

ブルブル

ブルブル

ブル

ブルブル

ブル

ぐちゃ
ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ニヤ

ブル

もつとぶつとくくて、熱くて、
大きいので乱暴に
掻き回して欲しいっ♡

ふひっ♡

ピキッ♡

ふひいっ♡

そう私をもどかしさに
身悶えた、何度目かのごと...

身体の奥から
よく馴染んだ、
覚えのある快感が
昇つてきましたっ♡

ブルブルっ♡

ひっ♡





そうだった、
思い出した……っ♡

私っ！ご主人様を
運ぶために……っ♡

んあっ♡

ご主人様が
巣を広げるために、
あの洞窟からここに
戻されたんだっ！っ♡

グビッッ

グビッッ

グビッ

グビッ

ああああっ♡

んはああああっ♡

ビク

ビク



この子たちがこれから私を犯して数を増やし、手始めに白玉楼の私の部屋がご主人様の巢になる…

あはああっ♡

あはっ♡

あっ♡

私の部屋でもご主人様とエッチし続けることが出来るなんて、私の部屋がご主人様の巢にしてもらえるなんて…

私のお腹の中で休眠状態だったご主人様の子種が次々活発化して出てくるのを見て、私は嬉しくなりました♡

私、最高に幸せですっ♡

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル